

室積祖春 むせきそふ 俳人。明治十九年十一月十七日滋賀縣生れ、昭和二十一年十一月四日歿（八六—一九六）。舊姓増水、本名尙たかし。別號増水祖春、大木縁、一平助居主人、柳圃、柳園、縁々子等。明治二十一年岡野知十の節事し、二十四年俳誌『半面』創刊同人。次ついでで正岡子規の會し祖春の號を撰んで貰ひ、子規歿後は佐藤紅綠に从つてその主宰俳誌『とくまの』の編輯に従事。のち『ポルトギス』の技師と、昭和二十一年の『春』を創刊主宰。妻は室積波那女（本名ハナ、明治二十五年五月二十日愛媛縣生れ、昭和四十二年七月二十日歿。夫歿後『ゆく春』を繼承主宰）、また俳人増永煙霞郎は實兄。

籟著書、内藤鳴雪 高濱鹿子 羊翰講 『子規句集講義』（共著・青峯筆記、大正五年八月十日俳書堂）、『俳句作法講座・第二卷』（合著・山本三生編、昭和十年十一月二十日改造社）、（三田村黄雲遺著・俳句集『落日』撰輯、昭和十一年五月十日橋井・三田村一朗版）、『ゆく春句集』（俳句集北斗一年鑑句集・昭和十一年渡版）（撰輯、昭和十一年八月二十日ゆく春發行所）、『定本・室積祖春句集』（平川巴竹編、昭和四十二年七月一日俳句研究社）等。